「日々の理科」（第 1270 号） 2017（H29）, 12, 28

北極圏旅行記 2017-2018 冬（３）

～12/27 スカンジナビア半島を北上～

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

フィンランドのコテージへの到着は、現地時刻で午後 10 時過ぎ。日本との時差は７時間なので、日本時刻では午前５時。ちょうど昨日の朝起きた時刻だ。機内ではほとんど寝なかったので、眠い。

ベッドルームは４つもあって、それぞれに２つずつベッドがある。私は「ムーミンベッド」でぐっすり眠った。部屋は床暖房付きで、快適だった。

これは暖炉。ロシアのペチカに似ている。裏側はキッチンで、ピザが焼けるようになっている。

居間もすばらしい。暖かくてくつろげて、ピアノまである。カーペットも北欧風だ。

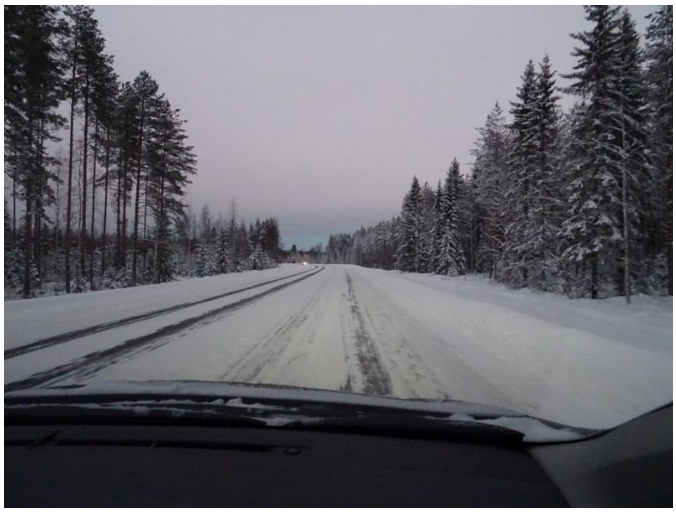
朝９時、出発前のわずかな時間だったが、村の中を歩いてみた。コテージの入口にはろうそくの入ったランタンが懸けてある。これが来訪者には、良い目印になる。嬉しい心づくしである。

コテージの向かい側にある、オーナーさんの家。これもまた素敵で、妖精でも住んでいそうな雰囲気だ。犬がワンワン吠えていた。

昨夜の雪で 10cm ほど積もった。家の前の曲がり角から、サンタがそりで現れそうな雰囲気だった。

私が停まったコテージ。白樺の森に囲まれた、静かな一軒家だ。名残惜しいが、一旦去ることにする。最終日にヘルシンキ空港に戻る時、もう一度１泊するので、まだ楽しみが残っている。

コテージを出て、国道への雪道をゆく。こういうローカルな道は、10cm 程度の積雪では除雪されていないことも多い。ハンドルをとられないように慎重に。



国道E７５（国際国道）号線に戻ると、路面が格段にきれいで、走りやすい。運転手は、わだち（黒く雪のない部分）に、自分の体が乗っている、という感覚で運転すると、コースを誤らない。

ナビは２機。車に備え付けのものが英語で案内すると、日本から持参したナビが、日本語で同時通訳のように同じことを言う。何か絶大な安心感があった。

北へ行くにつれて、気温はグングン下がって、氷点下 10 度以下に。窓の内側に「窓霜」がついた。